

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立三原台小学校
校長 西村 和 裕

中学校区におけるめざす子ども像	自己肯定感が高く、他者への思いやりある児童・生徒の育成
-----------------	-----------------------------

令和6年度 重点目標	心身ともに健康で、創造力に富んだ 主体的な児童の育成	(知・徳・体の調和のとれた児童の育成)	◆求める児童像	・考え工夫する子(創造性)	・協力する子(協働性)	・やりぬく子(自主性)
◇子どもに示す目標	み みんな仲よし三原台っ子(豊かな心の育成)	は はつらつと体力アップ三原台っ子(体力向上)	は はつらつと体力アップ三原台っ子(体力向上)	📖 らくらくと読書 100 冊三原台っ子(読書活動の推進)		
◇教職員に示す目標	だ 誰とでも元気にあいさつ三原台っ子(豊かな心の育成)	い いつも自分で考え発表できる三原台っ子(思考力と表現力の育成)	い いつも自分で考え発表できる三原台っ子(思考力と表現力の育成)			
	総合的な学力の育成	子ども理解(特別支援と人権)	教師力・チーム力の向上	信頼される学校・開かれた学校		

「確かな学び」の現状 これまで堺版授業スタンダードの定着をめざし授業改善に取り組んできた。児童同士の交流や発表の場面が授業時にはよく見られるようになってきている。今年度は「学びのコンパス」が提示されたので、より主体的に児童が学習に取り組めるようにしたい。また学校群モデル校1年目で日本語指導に重点を置き、児童の語彙力向上が見られた。2年目、さらに学力向上につなげるために、中学校区でより連携を深め、「特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育」に取り組んでいきたい。全校的に、基礎基本の学習を繰り返し行うことや家庭学習・自主学習の定着に重点を置き、タブレット端末の授業時の活用についても前年度より時間を増やし、GIGA スクール構想の推進をさらにおこなってきたい。	「豊かな心・健やかな体」の現状 コロナ禍があけて1年となるが、集団生活になじめない児童の増加や体力低下がいまだ課題である。現在、個別の支援をおこなっていくことが必要な状況は多くあるため、今年度も学校群をベースに、また、外部機関とも連携し、特別支援教育に立った個別最適な学びの実現をめざし取り組んでいく。また協働的な学びを通して、子どもたちの「自己肯定感」「思いやりの心」を育てていきたい。大きな課題である体力低下の面については、全校あげて体力アップの取組をすすめたい。学校協議委員会でのご意見をもとに対策をとったり、授業時の体力づくりの準備運動を全校で共有したり、日常生活や家庭でできる体力向上の取組などを推進し、さらなる全学年児童の体力向上をめざす。
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～9月)		達成状況(年度末)			
									自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	考え工夫する子の育成 基礎学力の充実	子どもの学ぶ力を育てる	●児童の日本語力の育成と指導の系統性を意識した全員がわかる授業づくり。	日本語力の育成に取り組んでいる。系統性を意識して授業をすすめている。	授業見学 研究授業検討会	年度末						
			★主体性を意識した特別支援と教科学力の両面からの授業づくり。(学校群でのめあて「誰一人取り残さない、わかる授業づくり」の推進)	国語の授業が好きと肯定的に答える児童の割合の増加	堺市児童アンケート調査	1学期と年度末で比較						
		基礎学力の定着	・授業の流れや自分の考えがわかるノートづくり。	8割の児童が自分の考えを文や絵図でノートにまとめることができる。	授業見学 担任確認	年度末						
			●基礎学力の定着を図る取組(家庭学習の定着)									
豊かな心・健やかな体	生活習慣の改善 体力向上	子ども理解	●児童の日本語力の育成と指導の系統性を意識した全員がわかる授業づくり。	日本語力の育成に取り組んでいる。系統性を意識して授業をすすめている。	授業見学 研究授業検討会	年度末						
			★主体性を意識した特別支援と教科学力の両面からの授業づくり。(学校群でのめあて「誰一人取り残さない、わかる授業づくり」の推進)	国語の授業が好きと肯定的に答える児童の割合の増加	堺市児童アンケート調査	1学期と年度末で比較						
			●基礎学力の定着を図る取組(家庭学習の定着)									
		基本的な生活習慣の定着	●GIGAスクール構想推進 (一人1台のタブレット端末活用の充実を図る)	3年以上の学年で、週3回以上のタブレット使用。	堺市教員アンケート調査	毎学期						
			★集団になじめない児童の居場所づくりと、小中9年間を見通した児童理解・教育支援。(学校群2年目)	校内支援委員会をもとに児童理解を深め学校群をも含めた組織的取組を行う。	学校アンケート いじめ早期解決 不登校数減少	年度末						
			●いじめ・不登校の早期発見・早期対応につとめる。	いじめ・不登校への早期対応								
開かれた学校	家庭・地域連携	体力アップと子どもの体力向上に対する意識の高揚・運動量の確保	・自分からすすんであいさつする子どもの育成	あいさつ運動の啓発・取組	堺市児童アンケート調査	年度末						
			・「読書活動(全校一斉朝の読書タイム)」の充実	図書館教育の推進								
			★「みんないく」「家での7つのやくそく」を軸とした生活習慣の改善。(学校群をベースに取組む)	みんないくアンケート実施分析 みんないく授業・児童への啓発	みんないく授業の全クラス実施	年度末						
		保護者・地域への情報発信と幼保小中も含めた地域共同体づくり	●体育授業での基礎体力向上に向けた全校での取組。	柔軟性の計測値アップと反復横跳び(敏捷性)の記録向上が図れている。	スポーツテストと1月での計測値比較	年2回計測時						
			・主体的に体力向上に取り組む子どもの意識づくり。									
			・委員会中心に外遊びをする子どもを増加させる。	自主学習としての体力アップに取り組む児童の増加	学校教育自己診断アンケート	年度末						
			・家庭と連携した体力向上の取組。									
			・HPや「学校だより」等による情報発信。	HP毎日更新し、アクセス250以上。	HP毎日更新	年度末						
			・堺版地域コミュニティスクールの体制づくり。	地域人材活用、出前授業の実施。	出前授業複数回実施							
			・地域行事への協力・積極的参加	地域行事に協力・参加	地域との交流増加							
			★幼保小中連携の「みんないく」の取組を行う。	みんないくリーダー研修参加	学年・学校での取組	年度末						
			・幼保小中の交流と連携を行う。	幼保小中の交流(ワクワクひろば等)。								

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)
-----------	-----------------